

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：中小企業振興費

事業名【新】デジタルインボイス活用促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

産業デジタル推進課 産業デジタル係 電話番号：058-272-1111(内3727)

E-mail：c11356@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 40,000 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	40,000	0	0	0	0	0	0	0	40,000
決定額	27,100	6,200	0	0	0	0	0	0	20,900

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

中小・零細企業は恒常的な人材不足となっており、業務効率化が必要であるにも関わらず、デジタル化への遅れやインボイス制度・電子帳簿保存法への対応の遅れなどといった課題が多くみられる。

こうしたことから、令和5年度には「受発注」、「インボイスの発行」から「決済」までの一連の業務のデジタル化と、データ連携による自動処理による県内中小・零細企業の業務効率化を図るモデル事業を実施した。

この実績を踏まえて、このモデル事業を活用して多くの事業者が業務の効率化に取り組むために、普及促進策を実施する。

(2) 事業内容

- ①デジタルインボイスの普及促進(キャンペーン)の実施
- ②県・市町村がデジタルインボイスを受領することができる環境の整備
- ③デジタルインボイスの活用による調査業務及び普及啓発・広報の実施

(3) 県負担・補助率の考え方

デジタル技術を活用して県内中小企業の課題解決を図り、業務効率化と従業員の働き方改革につながることから、これを県が支援する必要がある

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	40,000	(公財) ソフトピアジャパン 内容：システム改修費補助、利用促進費用、調査広報費等
合計	40,000	

決定額の考え方

補助対象事業を精査し、所要額を計上します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画

Ⅲ 各分野のDX

10 産業・労働

Ⅲ 各分野のDX

(1) デジタル化の段階に応じた支援によるデジタル技術活用の裾野拡

(2) 国・他県の状況

(3) 後年度の財政負担

なし

(4) 事業主体及びその妥当性

(公財) ソフトピアジャパン

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	デジタルインボイス活用促進事業費補助金
補助事業者（団体）	公益財団法人ソフトピアジャパン (理由) 「岐阜県第4次産業革命推進プロジェクト」において、ソフトピアジャパンを岐阜県におけるI o T推進拠点と位置づけているため。
補助事業の概要	デジタルインボイスを活用した業務のデジタル化とデータ連携による自動処理により県内企業の業務効率化を図るため、普及促進策を実施する
補助率・補助単価等	定率 (内容) 10/10 (理由) 県が設立した財団であり、県内のDX推進拠点としてコンソーシアムの事務局を担うものと位置付けるため。
補助効果	DXの成功事例創出と県内企業への横展開により、県内中小企業のDXを推進し、生産性向上や新たな企業価値の創出により、県内企業の競争力を高めることができる。
終期の設定	令和6年度 (理由) 普及後は管理者による自走に移行していくため

(事業目標)

- ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか
- ・ デジタルインボイス活用モデルの利用開始
- ・ 県内企業へのデジタルインボイス活用モデルの普及

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R5)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①デジタルインボイス連携基盤活用企業数	0	0	0	700	700	/

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	/	/	/

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>
令和3年度	<p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>
令和4年度	<p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p>
